

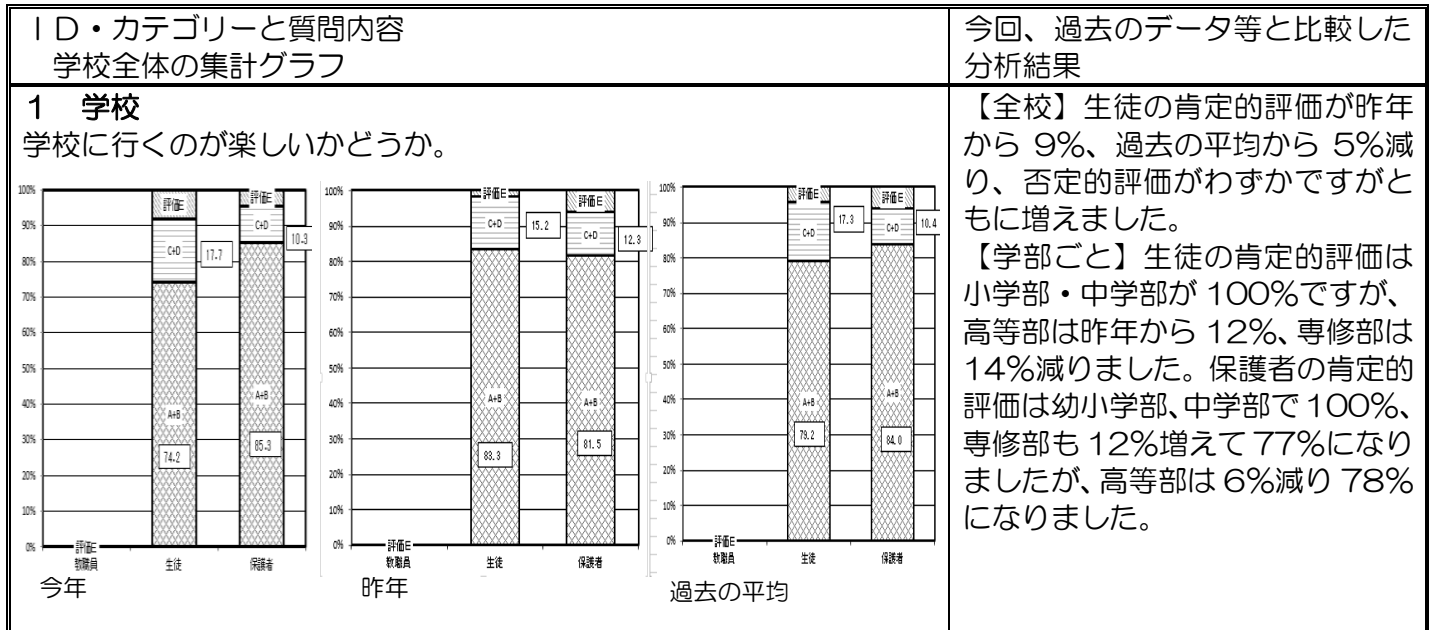
### 3 アンケート結果の考察と課題

\*グラフの見方(下から)

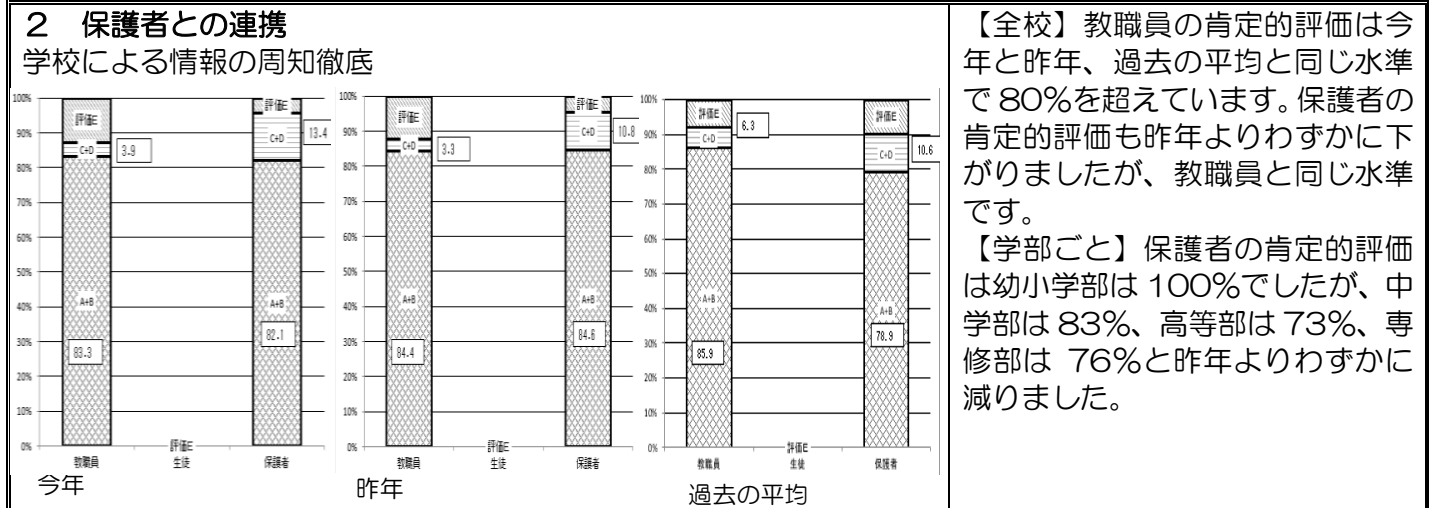
A+B 肯定的評価、

C+D 否定的評価、

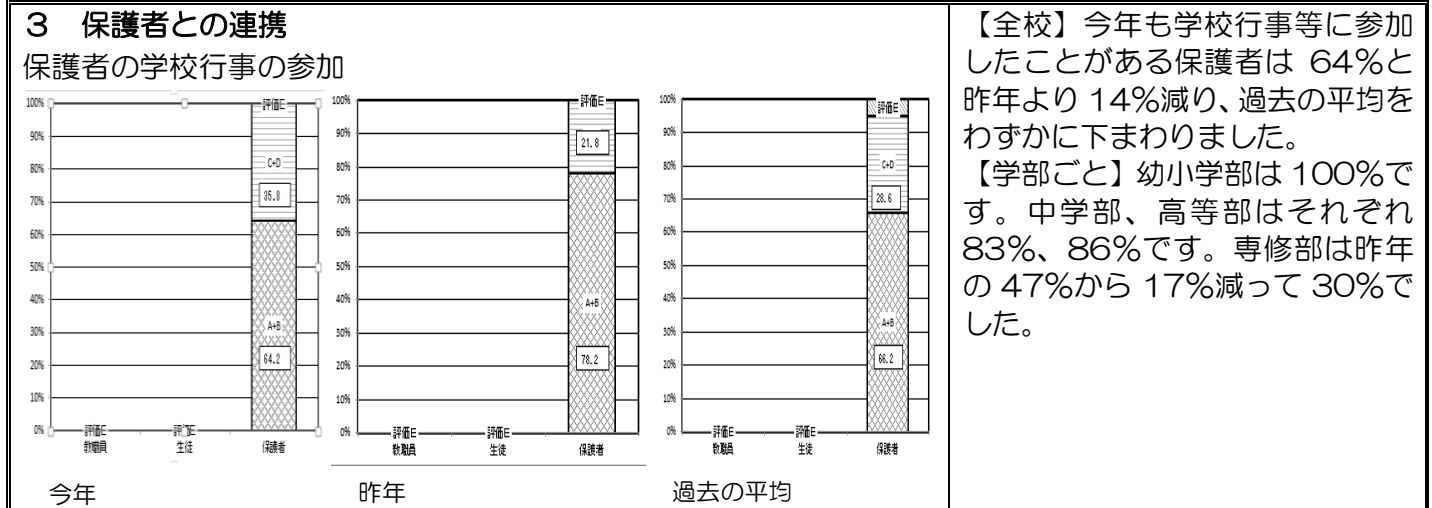
評価E わからない



【課題・反省等】今後とも学校全体として楽しく学べる環境を整えたいと思います。



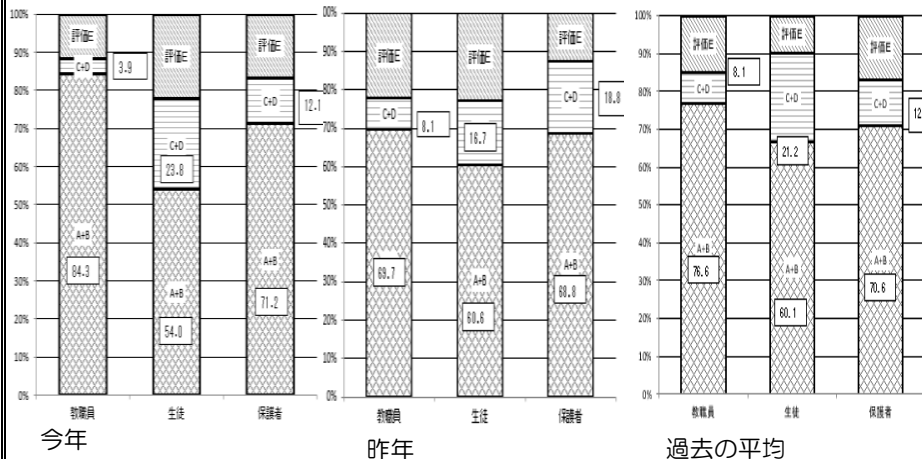
【課題・反省等】この結果に満足することなく、今後とも、すべての保護者に情報が行き渡るよう取組みを進めていきます。



【課題・反省等】専修部は成人の学生が多いという部の特性上、このような結果が出たと思いますが、学校としてはさらに、開かれた学校づくりのための取組みを行っていきます。

## 4 進路

### 一人ひとりに応じた進路指導



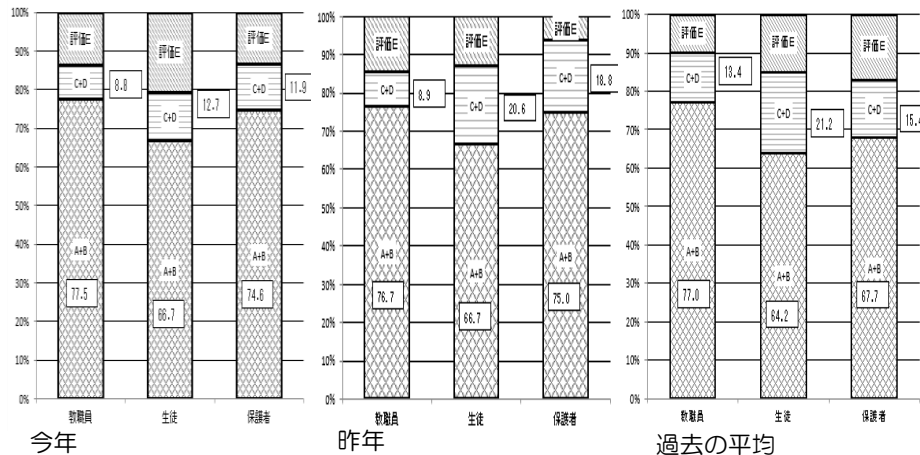
【全校】今年の結果は、肯定的評価が教職員は16%増え、保護者は微増で過去の平均と変わらずですが、生徒は6%減りました。生徒の否定的評価が昨年より7%増えました。

【学部ごと】専修部学生の肯定的評価が昨年から25%減り49%になりました。否定的評価は17%増えて33%になりました。高等部の肯定的評価は33%増えました。

【課題・反省等】肯定的評価が教職員は増え、生徒は減ったので教職員と生徒のギャップが昨年より広まりました。専修部については現状を分析するとともに、担任、分掌が連携を密にして情報提供を行うなど、きめ細かな進路指導の取り組みを行っていきます。

## 5 生徒・学生指導

### 悩みを相談できるシステムの有無や相談できる教職員の有無



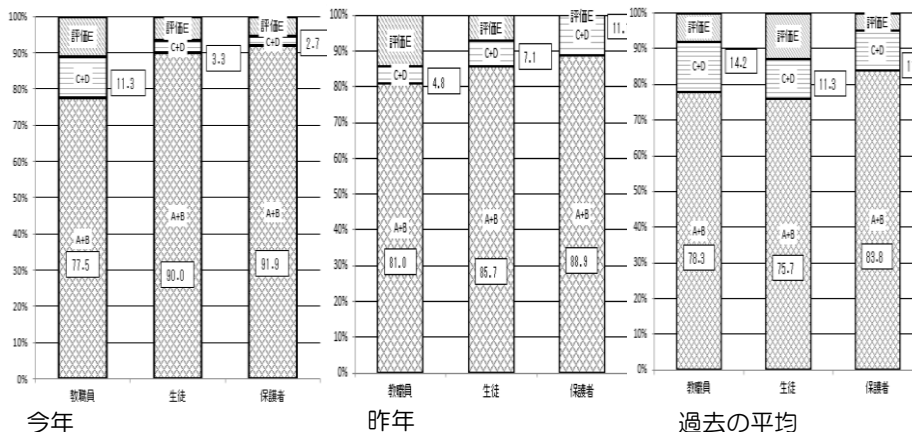
【全校】今年の結果も、昨年、過去の平均とほぼ同じ結果を示しており、教職員と生徒のあいだに10%の差があります。

【学部ごと】専修部学生の肯定的評価が昨年より3%減り69%になりました。高等部は肯定的評価が7%増え、否定的評価がなくなりました。中学部の肯定的評価は66%です。

【課題・反省等】毎年少しずつ肯定的評価が増えていましたが、今年は昨年と変わらず67%の生徒が相談できる先生がいると答えています。今後も、気軽に生徒が教職員とコミュニケーションをとったり、相談できたりする雰囲気を作るとともに、校内の相談システムの周知徹底にも努めます。

## 6 児童・生徒理解 (幼小・中・高)

### 教職員の幼児、児童、生徒の障がいについての理解



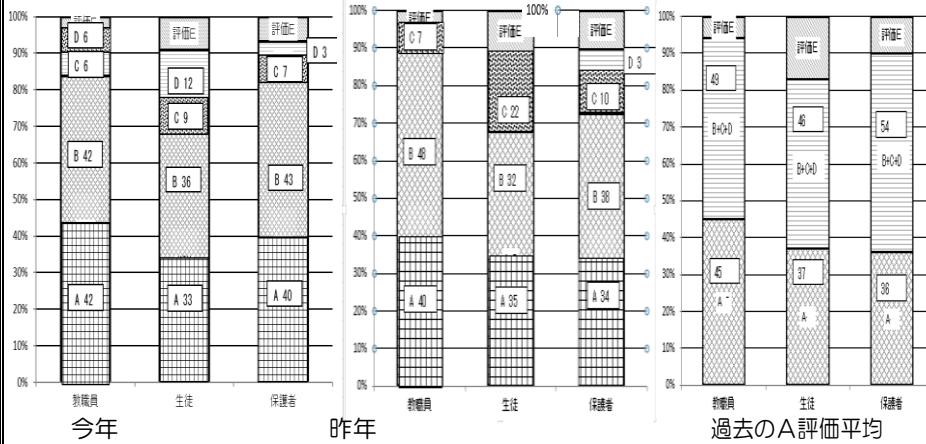
【全校】今年の結果は昨年を上回り生徒、保護者の肯定的評価がそれぞれ90%、92%と90%を超える高い評価を受けています。教職員の否定的評価が8%増えました。

【学部ごと】肯定的評価は中学部の生徒、保護者は100%、幼小小学部の生徒は78%、保護者は100%です。高等部の生徒は、93%で昨年から23%増えました。保護者は昨年と変わらず78%、否定的評価は16%減って7%です。

【課題・反省等】生徒、保護者の肯定的評価が過去の平均から見ても、徐々に上がってきていることがわかります。教職員の肯定的評価は変わらず、否定的評価が増えました。今後も研修会や事例検討会などさまざまな機会を通して、一人ひとりの在校生の障がいの状況について理解を深めていくと同時に、さらに各部の連携を密にして、幼児、児童、生徒、学生の情報の共有化を図っていきます。

## 7 児童・生徒理解（専修部）

学生の障がいについて理解している教職員の割合



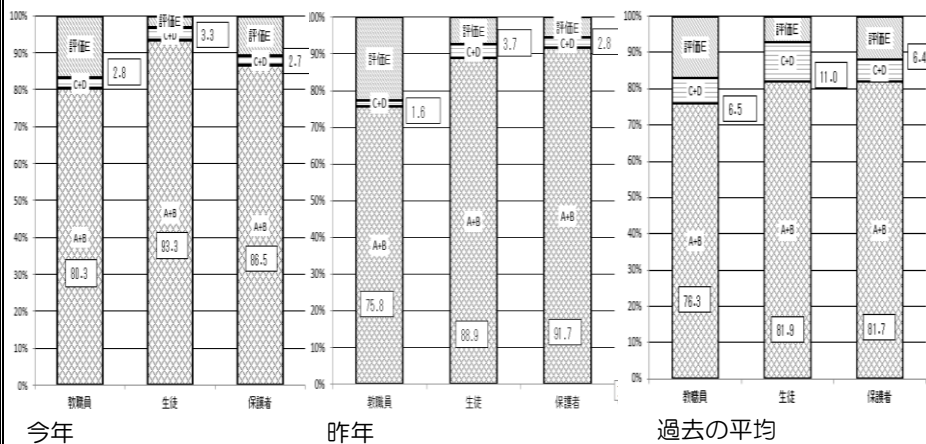
専修部単独で学生の障がいを理解している教職員の割合を聞く質問です。

- A：とても多い（75%以上）
- B：半分以上はいる（50%以上～75%未満）
- C：半分以下である（25%以上～50%未満）
- D：とても少ない（25%未満）
- E：わからない

【課題・反省等】この質問はA評価をいかに増やしていくかが課題となりますが、今年と昨年のA評価を比較すると教職員・保護者は微増、学生は微減です。一方、学生のC評価は13%減の9%ですがD評価が12%あります。今後いっそう、研修会や日々の取り組みを通して学生一人ひとりの障がいについて理解を深め、それをそれぞれが実感できるように、情報や支援の方法について共有化を図っていきます。

## 8 授業（幼小・中・高）

わかりやすい授業の実施



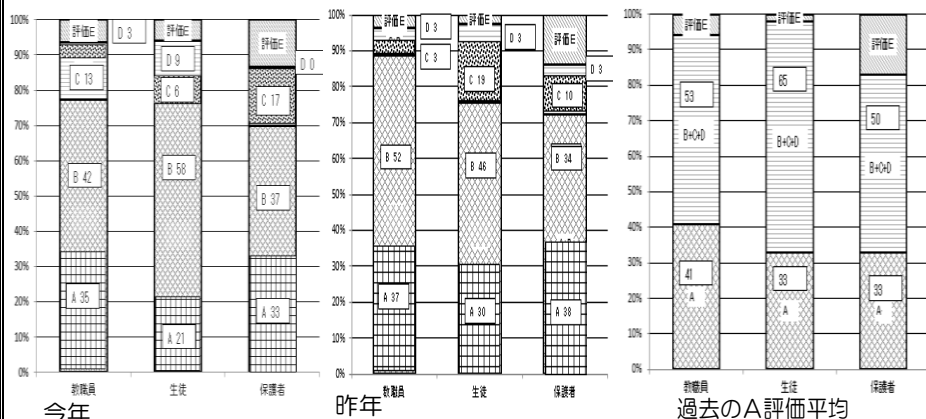
【全校】肯定的評価を昨年と比較すると教職員は4%増えて80%、生徒も4%増えて93%、保護者は5%減って87%ですが、依然として高い評価を受けています。過去の平均と比較しても教職員、生徒、保護者の三者とも増えています。

【学部ごと】  
 幼小学部、中学部の保護者の肯定的評価は「わからない」を除けばほぼ100%です。高等部の否定的評価は生徒、保護者とも8%です。

【課題・反省等】この結果に満足することなく、今後とも学習会や研修など様々な機会を通して、教職員のスキルアップを図っていきます。

## 9 授業（専修部）

授業内容を工夫し、わかりやすい授業に努めている教職員の割合



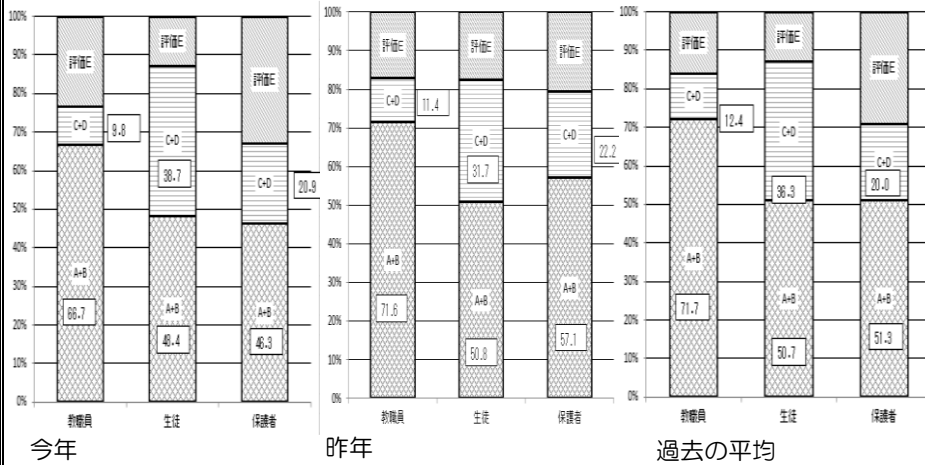
専修部単独で授業内容を工夫し、わかりやすい授業に努めている教職員の割合を聞く質問です。

- A：とても多い（75%以上）
- B：半分以上はいる（50%以上～75%未満）
- C：半分以下である（25%以上～50%未満）
- D：とても少ない（25%未満）
- E：わからない

【課題・反省等】この質問もA評価をいかに増やしていくかが課題となりますが、今年と昨年のA評価を比較すると教職員35%で2%減、学生21%で9%減、保護者33%で5%減と、三者とも減りましたが、学生の減り方がいちばん大きいです。A評価を増やすことができるよう今後とも学習会や研修など様々な機会を通して、教職員の授業力向上に努めてまいります。

## 10 授業

### ICTを活用した教育の取り組み



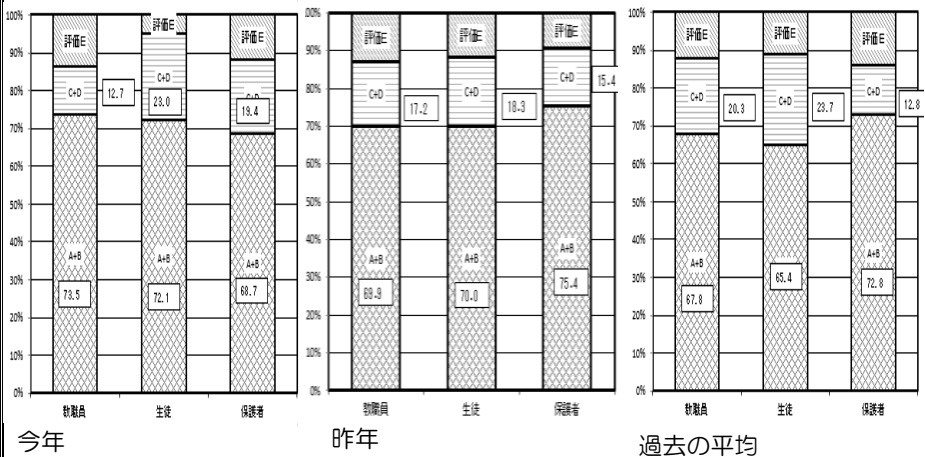
【全校】今年も過去の平均とほぼ同じ結果を示しています。昨年と比較すると教職員、生徒の肯定的評価がわずかに減り、生徒の否定的評価が7%増えました。保護者の肯定的評価は10%減りました。

【学部ごと】【学部ごと】高等部生徒は「わからない」を除くと肯定的評価が93%ありますが中学部は50%です。専修部学生の肯定的評価は33%、否定的評価が61%でした。

【課題・反省等】生徒の実態が異なるので、一概には言えませんが、各学部でICT機器を授業に取り入れる取り組みを進めています。専修部でも徐々にそうした取り組みが行われるようになりましたが、それが定着していないと考えます。教職員の研修や機器の整備を行い、ICTを視覚障がい教育に活用できるようにしていきます。

## 11 人権

### 幼児、児童、生徒、学生に対する積極的な人権教育の推進



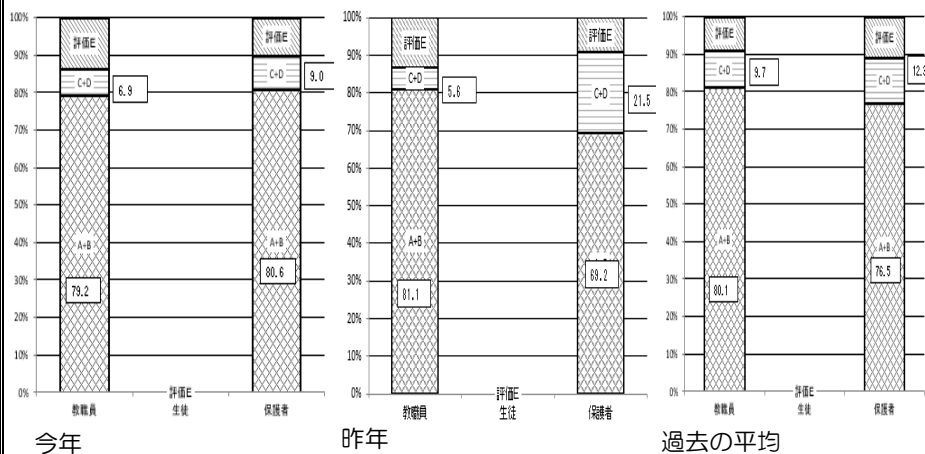
【全校】昨年と比較すると肯定的評価は教職員が5%増、保護者は6%減、生徒は微減でした。否定的評価は生徒が5%増、保護者も4%増でした。

【学部ごと】昨年と比較すると専修部学生の肯定的評価が8%減って56%となり、否定的評価は13%増えました。高等部生徒の肯定的評価は28%増えて87%、否定的評価が10%減って7%でした。

【課題・反省等】各部で人権について考える機会を設け、職員についても全校、各部で参加体験型の研修会を行っています。今後ともこうした取り組みを充実させていきます。

## 12 人権

### 日常の教育活動における幼児、児童、生徒の人権の尊重



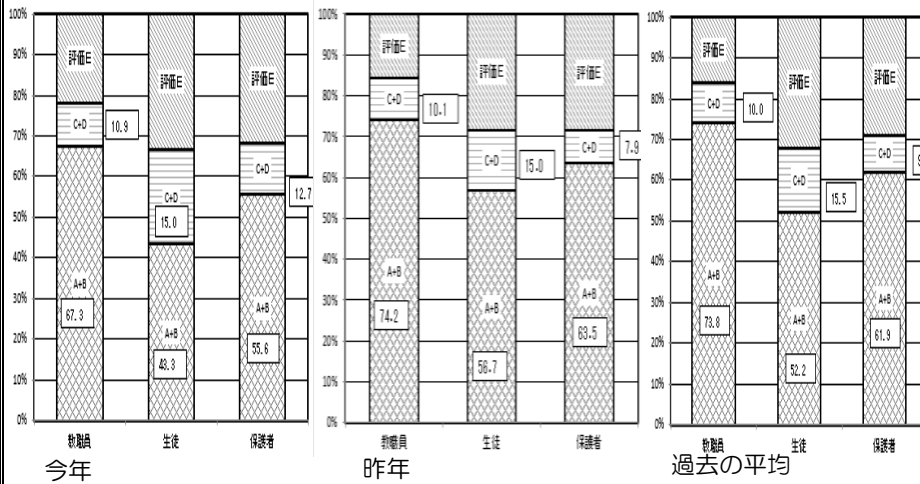
【全校】昨年と比較すると保護者の肯定的評価が11%増え、否定的評価が12%減りました。教職員の肯定的評価、否定的評価は昨年と変わりませんでした。

【学部ごと】昨年と比較すると高等部保護者の肯定的評価は24%増えて86%、専修部保護者の肯定的評価は11%増えて67%になりました。否定的評価は高等部保護者は0%、専修部保護者は14%減って20%になりました。教職員の否定的評価は、幼小学部が14%減って0%になりました。

【課題・反省等】保護者の肯定的評価が10%増えて、教職員との間にギャップがなくなりました。さらに研修を充実させ、安全・安心に配慮された学校づくりをすすめていきます。

### 13 人権

いじめなどの行為に対して適切に対応しているか



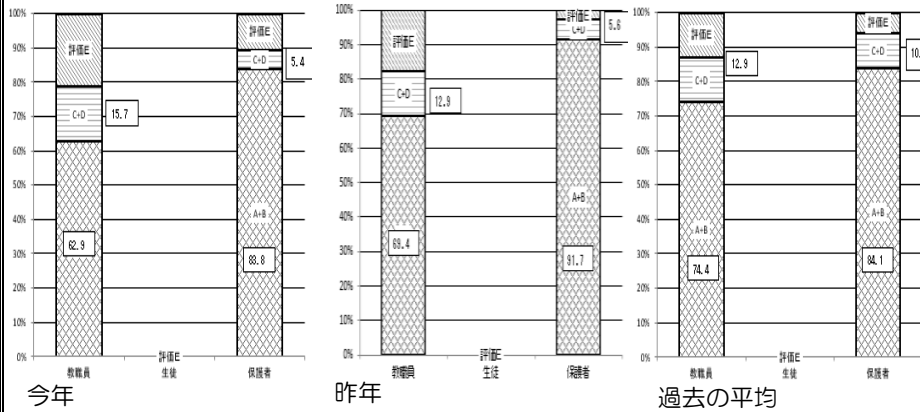
【全校】教職員にはいじめなどの行為があれば適切に対応できているか、生徒、保護者には適切に対応してくれるかを質問しました。生徒、保護者の肯定的評価はそれぞれ43%、56%、否定的評価は23%、13%で肯定的評価は生徒が14%、保護者が8%減り、否定的評価は生徒が8%、保護者が4%増えました。

【学部ごと】いずれの学部の生徒、保護者も「わからない」が多いです。昨年と比較すると専修部学生の肯定的評価が19%減って44%、否定的評価が23%増えて41%になりました。

【課題・反省等】今年は教職員と生徒、保護者の肯定的評価の差が開く結果となりました。その原因を探るとともに、それを縮めることができるよう日々取り組んでいく必要があると感じます。

### 14 教育課程

幼児、児童、生徒の実態に応じた教育課程の編成



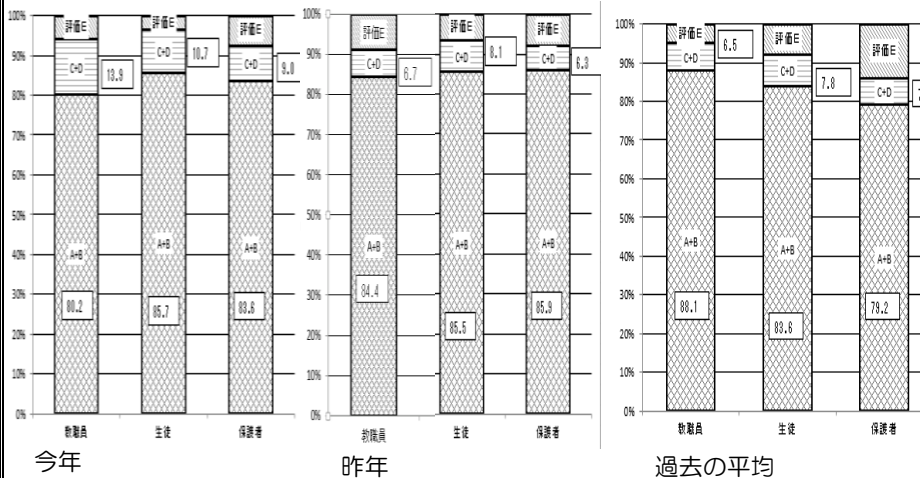
【全校】今年の保護者の肯定的評価は昨年より8%減って84%となったものの、まだ高い評価を得ています。教職員の肯定的評価は4%減り、否定的評価は3%増えました。

【学部ごと】否定的評価は幼小中学部・中学部の保護者にありませんが、高等部の保護者に14%あります。教職員の否定的評価が幼小中学部は31%、中学部は23%、高等部は10%あります。

【課題・反省等】毎年、幼児、児童、生徒の実態が変わる中、各部とも日頃の教育活動について意見を出し合い、できるかぎり、幼児、児童、生徒の一人ひとりの障がいの実態に配慮した教育課程を検討していきます。

### 15 学校安全

地震や火災など非常時の対応方法が適切に教えられているか



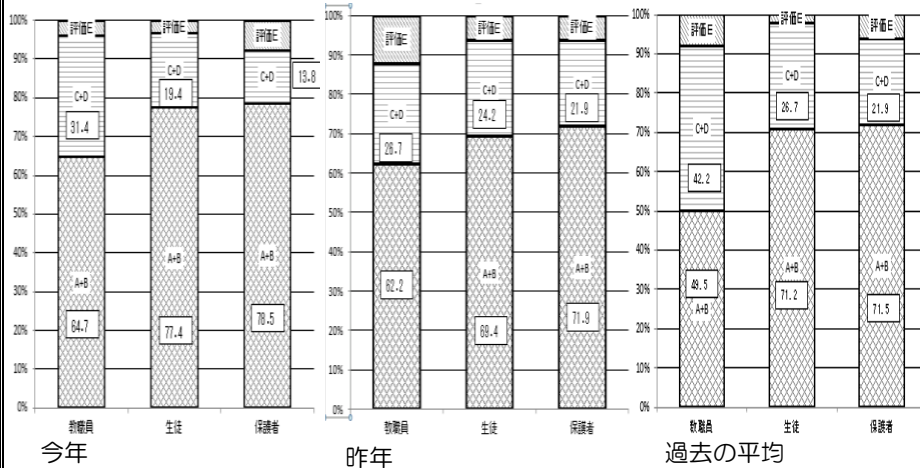
【全校】昨年同様、今年も教職員、生徒、保護者とも肯定的評価は80%を超え、今年は生徒の肯定的評価が86%で三者の中でいちばん高い評価を得ています。

【学部ごと】小学部、中学部、高等部生徒の肯定的評価は100%、専修部の学生の肯定的評価も昨年の79%から81%に増えましたが、否定的評価は10%増えて18%でした。

【課題・反省等】学校では定期的に火災、地震、不審者に対する避難訓練を実施しており、またその際、起こり得るさまざまな状況を想定して、実際の緊急事態に対応できるよう工夫を加えて取り組んでいます。個々の訓練を検証し、実際に起きたときに教職員、生徒とも適切な行動がとれるようにしていきます。

## 16 学校安全

校舎は視覚障がい者にとって安全で使いやすいか



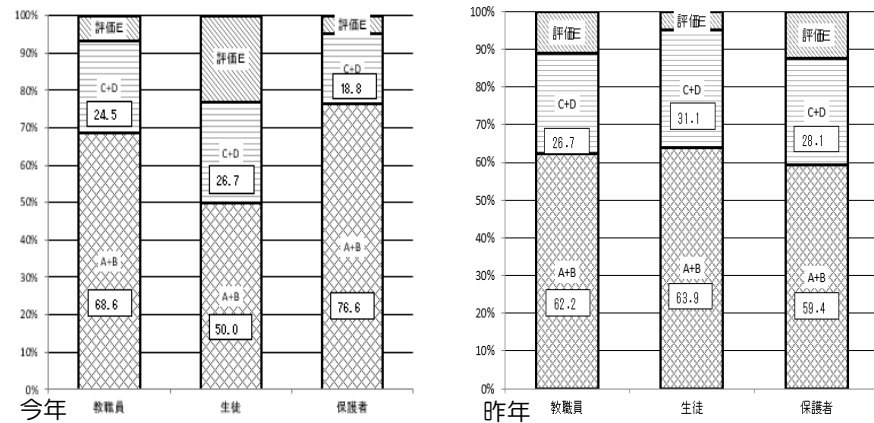
【全校】昨年と比較すると教職員、生徒、保護者の肯定的評価はそれぞれ5%、8%、7%増えており、否定的評価は教職員は4%増えたものの、生徒、保護者は4%、8%減りました。

【学部ごと】昨年と比較すると教職員の否定的評価が幼小学部が9%増えて31%、中学部が10%増えて18%、高等部が5%減って10%、専修部が5%増えて45%と否定的評価の増えた部が3つあります。高等部生徒の否定的評価は17%減りましたが、専修部学生は2%増えました。

【課題・反省等】年を追うごとに、肯定的評価が増えてきています。根本的な改良は難しいですが、改善できるところは改善してきた結果がでていいると思われます。今後とも視覚障がい者の立場に立って、校舎を検証し、生徒、保護者、教職員をはじめ本校に関わるすべての方の安全に努めていきます。

## 17 学校安全

通学路は視覚障がい者にとって安全に整備されているか



【全校】昨年から実施している質問です。学校の南側にはスーパー、マンション建設も本格化して、歩行環境が以前と大きく変わっています。

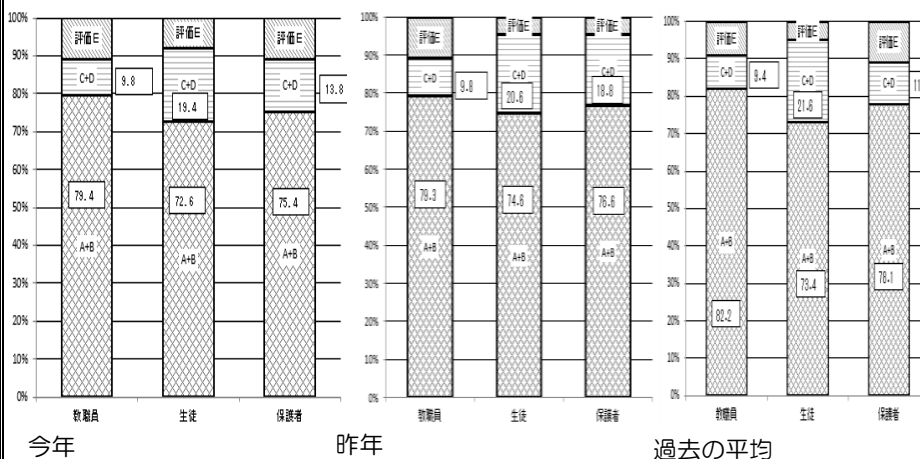
肯定的評価は教職員、保護者がそれぞれ7%、18%増え、69%、77%あります。生徒は14%減って50%になりました。

【学部ごと】各学部生徒の否定的評価は、幼小学部11%、中学部0%、高等部20%、専修部39%です。教職員の否定的評価は幼小学部0%、中学部は27%、高等部33%、専修部26%でした。

【課題・反省等】昨年の学校南のスーパー開店に伴い、正門前を自転車が多く通行するようになりました。そのため、受付員が配置されていない下校時刻を中心に、正門前に警備員を配置しています。マンション建設工事の本格化に伴い、業者から工事の工程表を提示いただくとともに、安全面についての配慮を強くお願いしています。今後とも、学校の南側の関連業者のみならず、大阪府教育庁支援教育課、大阪市の道路管理部局とも密な連携を図り、通学路の安全確保を図って参ります。

## 18 学校行事

スポーツフェスティバルや文化祭など学校行事が楽しいかどうか  
専修部は学科の行事が有意義かどうか



【全校】今年も昨年、過去の平均とほぼ同じ結果を示していますが、保護者の否定的評価が5%減りました。

【学部ごと】幼小・中学部は三者とも肯定的評価がほぼ100%、高等部職員も100%です。否定的評価は高等部生徒に13%あります。専修部は教職員の肯定的評価が7%減って77%。学生は6%減って59%。保護者は7%減って55%です。否定的評価は教職員が3%増えて19%、学生は4%増えて31%、保護者は6%減って24%です。

【課題・反省等】スポーツフェスティバルや文化祭をはじめとする学校行事を見直す取り組みも始まりました。その中でも生徒が主体的に取り組み、一人一人が充実感を持てる行事をどのように企画、運営するか考えていくと思います。専修部についても、学生の意見、感想を各学科の行事や自主的に参加しているスポーツフェスティバルや文化祭の企画、運営に活かしていきます。

#### 4 おわりに

今回の学校教育自己診断で明らかになった個々の課題については、次年度以降も各学部、各分掌で改善に向けた取り組みを続けてまいります。